

赤ちゃんのうんちに血液が混じる

生後しばらくして赤ちゃんの便に小さな赤い血液が混じることがあります。これは母乳育児の赤ちゃんに多いので「母乳血便」とも呼ばれています。

特 徴

- ① 生後少し時間がたった2-3ヶ月時に多く、時にはもっと後でも見られる。
- ② 普通の母乳便に点状から線状の少量の赤い鮮血が付着する。
- ③ 赤ちゃんの状態は良好で体重の増えもよい。お腹を痛がる様子もない
- ④ 母乳の赤ちゃんに多く、便の回数も多い。
- ⑤ 便の培養やその他の検査でも異常を認めない、という点があげられます。

母乳では胃に母乳が入るとすぐに腸が動いてうんちが出る「胃一直腸反射」や、母乳成分の乳糖やオリゴ糖の作用、さらにホルモンの働きで便の排泄が容易になり、回数も多くなります。母乳ではこの便の回数が多いことが、腸の最終出口である直腸に軽度のびらん（表面が少し「あれる」わけです）を作り、そこから出血することが原因となります。

この「びらん」は軽度であることが多く、すぐに治ります。

時に「びらん」からの粘液状のねばねばした成分が一緒のこともあります。

ちなみにこの「母乳血便」の正式の名前は「乳児良性直腸出血」です。

特に治療はなく経過を見るだけでよく、何回か繰り返すことがありますが、上記の特徴を示すものであれば心配ありません。

気をつけること

赤ちゃんの血便で気を付けなくていけないのは「腸重積」です。

吐いて、お腹が痛いように少し時間をおきながら泣いて（間欠的という言葉を使います）、浣腸をするとイチゴジャム状と表現されるおむつ全体の血便がでます。

これは緊急事態なのですぐに小児科にいきましょう。

それと慢性的な出血で貧血になってしまう「メッケル憩室炎」というのがあります。これらの詳しいお話はまたいつか。

この母乳血便で何と「母乳アレルギー」と診断され、入院とされ点滴絶食で、おまけに母乳をやめさせられ抗アレルギーミルクにされた赤ちゃんが何人かいます。

その内の二人は幸いなことに退院後その足で私のクリニックにきて、その場で母乳を再開することが出来ました。もう数日遅れれば母乳育児は出来なくなっていたかもしれません。

この「母乳血便」はあまり教科書に載ってはいません。

医学・医療を教える側が現場を知らず、学生も教科書だけで育つ今の医学教育の怖さですね。